ゆっくり碁盤を囲むひまもありません

八幡市老人クラブ連合会会長　　奥野　伊佐吉さん（八幡市）

　戦前から勤めた京都市内の会社を定年退社したあとも、他の職場で働いてきた。６７歳で仕事をやめると、以前から誘われていた地域の老人クラブに入会、いきなり副会長に。クラブ内で各種の役職を重ね、現在では会員５千人余の連合会のトップを務めている。

　老人クラブの目下の課題は会員増強と若いリーダーの養成だ。奥野さん自身がそうであったように、定年退職しても、すぐに入会する人は少ない。“老人”という名前にも抵抗感があるようだ。

「団塊の世代が退職する今がチャンスなんですけど。入会する人があっても、亡くなる人もありますので、なかなか増えません」

　現役時代は２０年間、野球に打ち込み、ピッチャーとして社会人野球に出場したこともあるし、監督も努めた。陸上競技でも中短距離で活躍するなどスポーツマンだった。「６０歳までは健康でした」が、その後、椎間板ヘルニアの手術をしたり、軽い脳梗塞も患った。

　現在の趣味は囲碁とカラオケ。１５もある連合会の趣味の部会では、カラオケも活発な部会の一つだ。

　「囲碁は３段を持っています。５段までいったんですが、やらないと弱くなりますね」

　多忙で碁盤を囲む暇がないのが悩みだ。